

## 島根県の自然環境の展望 ～自然史博物館としての役割の中から～

島根県立三瓶自然館

森本 直知

### 1. 全国の自然系博物館の課題と展望（博物館総合調査から）

#### 1) 環瀬戸内地域（中国・四国地方）自然史系博物館ネットワーク推進協議会の設立

- ・ H12／13文部科学省科学系博物館ネットワーク推進事業の一環として公立7館園により設立された。

#### ・ 推進事業の内容

- 各館の持つ資源（標本、資料、学芸員の専門性）の共有による事業の展開
- 他館の事業の進め方、ノウハウの習得による事業の改善
- 学芸員の人的交流の活性化
- 博物館間連情報の活性化、
- 自然系博物館の存在意義の強力なアピール

#### 2) この流れの中から、「NPO法人西日本自然史系博物館ネットワーク」設立

- ・ 11館園が組織登録をし、各施設が連携し交流の展開を図った。
- ・ 館園職員、友の会関係、大学人等有志提案事業の実現、各種シンポジウムの開催などを行う一方、法人格となり、公的事業受託、事業助成などを行った。

#### 3) 全国の自然系博物館は都道府県立22館、市町村立50館、その他31館・内55館において部外連携・交流を行っている。

#### 4) 地域の自然の生い立ち、現状の把握とその価値の共有化、次世代への継承の必要性

- ・ 自然と向き合い、体験する機会の消失、自然への無関心、自然離れ減少が顕著となる中で自然系博物館の役割は重要となってきた。
- ・ 自然学習拠点施設として、学校との連携を図り、地域に密着、実践活動を通じて信頼度と安定性を維持し、ネットワーク化していく傾向にある。
- ・ さらに学術的要請に応える役割を持つ。

#### 5) 自然系博物館としての三瓶自然館の特徴・役割

- ・ 西日本自然史系博物館ネットワークへの積極的アプローチ
- ・ 島根県の自然史に関するシンクタンク的機能
- ・ 県民住民と共にある三瓶自然館
- ・ プラネタリウム協議会等全国組織の中での役割

### 2. 島根県の自然環境の現況・特徴

#### 1) 自然環境の保全を推進している地域

- ・ 国立公園（1ヶ所）、国定公園（2ヶ所）、県立自然公園（11ヶ所）、自然環境保全地域（6ヶ所）があり、その面積は島根県の6%である。
- ・ 県土の79%が森林、ブナ原生林等（自然度9～10）1%
- ・ みんなで守る郷土の自然 43ヶ所（s62～h4 見直し12）
- ・ みんなでつくる身近な自然観察路 48ヶ所（h2～h6 見直し12）

#### 2) 三瓶自然館の役割

- ・ 島根の自然環境の価値を再認識すると共にふれあいの場として期待する（知事）
- ・ 自然と親しむ場の確保と自然環境に関する学習機会の提供（設置条例）
- ・ 自然公園の保護と利用、地球環境・自然環境・その他の環境保全の普及啓発、島根県の環境保全に寄与（寄附行為）

※ 自然とお話ししたいとき、ちょっと悩んだとき、ボーとしたいとき、「ハテナ？」と思うとき、そんなときに行きたくなる三瓶自然館でありたい。